InSEA

公益社団法人
# 日本美術教育連合ニュース

No. １５１

２０１７．９

〒113-0033　東京都文京区本郷2-30-14　文京ビル206号
公益社団法人　日本美術教育連合
発行人　理事長　大　坪　圭　輔
ニュース担当　北　川　智　久
E-mail:kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

## エビデンス、汎用能力、これから…

公益社団法人　日本美術教育連合理事　結　城　孝　雄

2017InSEA世界大会が開催期間５日間、参加者数約1,000人、発表数約400という盛況のうちに終了しました。本法人からも大坪理事長はじめ、多くの会員が発表されました。詳しくは、国際局からの報告を御覧ください。会場の韓国大邱には、東京から１時間半の近距離でしたが、空港滑走路には、戦闘機の格納庫が立ち並び、有事の際は、即刻基地になる状態であることに今日の世界情勢の緊張感が改めて感じられました。

美術教育でも世界の情勢は、今後日本にも影響を与えるのでしょうか…。昨年秋にOECD CERI（教育研究革新センター　以下CERI）から出されたレポート『アートの教育学』があります。御覧になった会員の方も多いでしょう。本書の命題は、芸術教育が汎用的能力の育成に寄与するのかどうか、科学的根拠を持って、世界の先行研究を精査して明らかにすることです。CERIは、芸術と芸術教育の意義を十分に是認する立場の上に立って、今後の学習の中心概念であり、汎用的能力である「21世紀型スキル」に芸術教育が関与できるかを「学習の転移」を用いて明らかにしました。結果は、私たちの領域である「視覚芸術」には、ほとんど「学習の転移」見られないという結果でした。つまり、視覚芸術の教育は、視覚芸術に限った能力には有効であるが、他の汎用的能力には影響を与えないと。わずかにVTSの鑑賞学習が他領域の観察力向上に寄与することが確認できるという内容です。本レポートの副題は「芸術のための芸術？」といささか挑発的な副題が付けられています。この内容に対して、今後様々な議論が呼び起こされることでしょう。

今世界は、国境、文化、領域、制度等がボーダレスとなり、相互に影響を与える状況に置かれています。脳科学の進歩は、教育にも大きな影響を与え、その構造を変えつつあります。私たちは、この世界の状況、他領域の状況を鑑みて、これからの美術教育のあり方について考えを巡らす位置にいるのではないでしょうか。Education through Artの理念をより多くの人々に伝えるために。

---

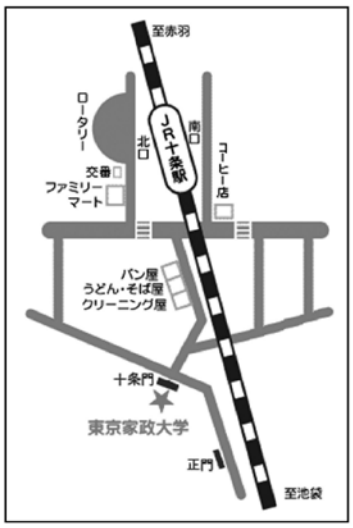
## 第51回　日本美術教育研究発表会2017　案内

１．日　時　　平成29年10月15日（日）　９時～17時30分（予定）
２．会　場　　東京家政大学板橋キャンパス　16号館
　　〒173-8602東京都板橋区加賀１－18－１
３．主　催　　公益社団法人　日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
４．後　援　　文部科学省（申請中）

研究局より

# 第51回　日本美術教育研究発表会2017（最終案内）

昨年度の第50回記念日本美術教育研究発表会2016には、研究発表申込みが35組ありました。本年度は14組増で史上最多49組の申込みがあり、発表会場を増やし５会場同時発表とします。閉会式後に、16号館１階のカフェラウンジ「ルーチェ」で懇親会を催し、最初に集合写真撮影を行います。国内外の最少参加費で、学的研究・授業実践など多彩な研究発表会にぜひご参加ください。



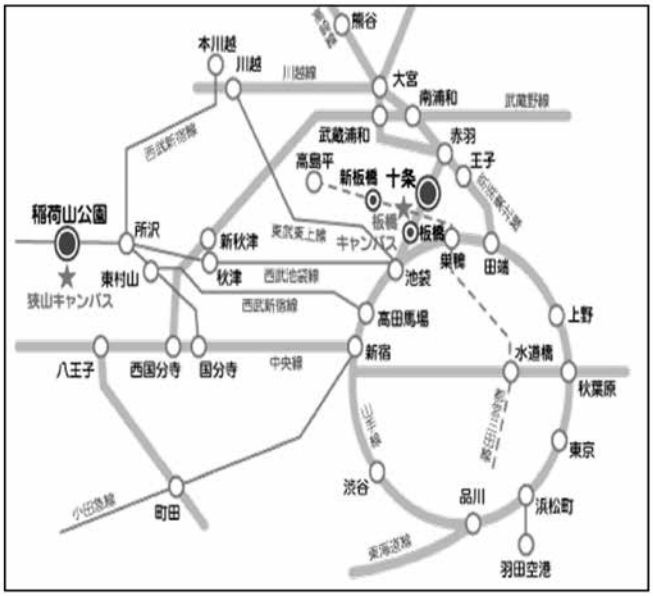

□主　　催：　公益社団法人　日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）

□後　　援：　文部科学省（申請中）

□開催日時：　**2017年 10月15日（日）　9時30分～ 16時20分**

□会　　場：　**東京家政大学　板橋キャンパス16号館**
〒173-8602　東京都板橋区加賀1-18-1
http://www.tokyo-kasei.ac.jp/about/access/tabid/99/index.php

□アクセス：　JR埼京線十条駅　　下車徒歩　５分
JR埼京線板橋駅　　下車徒歩　17分
都営三田線新板橋駅　下車徒歩　12分




□参加資格：　会員も会員でない方でも参加できます。

□参 加 費：　参加費は一人500円です。
（受付で概要集をさし上げます）
事前申込は不要。お誘い合わせてご参加下さい。

□昼　　食：　近隣に昼食を購入できる店はありません。
学生食堂が日曜休業のため、昼食はご持参下さい。

□問合せ先：　**［事前・事後］山口喜雄**（のぶお）
（研究局長）
nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

□緊急連絡：　**［当 日 の み］東京家政大学　結城孝雄**（事務局長）携帯電話　090-2387-6094

## 日本美術教育研究発表会2017　懇親会

□開催日時：　**2017年 10月15日（日）（閉会式後）　16時30分～ 18時20分**

□会　　場：　東京家政大学　板橋キャンパス16号館　**１階カフェラウンジ　ルーチェ**

□会　　費：　一般　2,500円、現職教員を除く院生･学生2,000円（昨年参加者数63名）

□参加申込：　当日午前中に受付にて承ります。懇親会のみの参加は山口宛てメールも可。

□持寄歓迎：　ワイン・清酒・洋酒のご持参を歓迎します。（記名され受付にお渡し下さい）

# 第５１回　日本美術教育研究発表会 2017

２０１７(平成２９)年１０月１５日(日)　会場　東京家政大学１６号館
主催 公益社団法人日本美術教育連合　　後援　文 部 科 学 省（申請中）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ９：３０<br>９：４５<br>９：５５<br>（移動） | 受　付（ 当日、会場案内を１階に掲示します ）<br>開会式（発表会場 A　161A室／研究発表者控室 162A室 ２階 ）　発表会場 A と B と C は１階、 D と E は２階 | | | | |
| | 発表会場　A　161A室<br>（制度・海外など）　定員116名 | 発表会場　B　161B室<br>（美術教育実践など）定員165名 | 発表会場　C　161C室<br>（鑑賞教育など）定員165名 | 発表会場　D　162B室<br>（保育・発達など）定員165名 | 発表会場　E　162C室<br>（多様性など）定員165名 |
| １０：００<br>１０：２５<br>（移動） | STEAM教育にみる異領域同士の融合原理(1)―関連文献から考察する”Art”の位置付け―<br>東京家政大学・<br>東京学芸大学大学院博士課程<br>畑山未央<br>Ａ１ | 児童の主体性を引き出す図画工作科授業実践の研究(2)<br>-中学年の表現活動について-<br>沖縄カトリック小学校<br>矢澤　聡<br>Ｂ１ | 特別支援学級における表現の喜びを育てる版画指導<br>一般社団法人日本版画院<br>中條秀憲<br>Ｃ１ | 幼児の体験と表現<br>和光鶴川幼稚園<br>堀　新菜<br>Ｄ１ | テクストから豊かに紡ぎだされる視覚イメージの考察<br>東京学芸大学大学院博士課程<br>松井素子<br>Ｅ１ |
| １０：３０<br>１０：５５<br>（移動） | 日本の国際協力における基礎教育分野の一考察<br>-造形美術教育の技術移転に関する質的分析-<br>東京学芸大学附属竹早中学校<br>山田　猛<br>Ａ２ | 中学校美術科の授業におけるコミュニケーションロボット活用の可能性<br>群馬大学大学院・<br>みどり市立笠懸南中学校<br>茂木克浩<br>Ｂ２ | 「共視論」的考察を参考にした図画工作科教育論<br>お茶の水女子大学附属小学校<br>堀井武彦<br>Ｃ２ | 大人が描く子どもの絵<br>-園での造形活動や図工の時間に生かすための実践活動-<br>川口短期大学<br>木谷保憲<br>Ｄ２ | 子どもの「とらえ直し」についての研究<br>-ユーモアの発現に着目して<br>東洋大学<br>北澤俊之<br>Ｅ２ |
| １１：００<br>１１：２５<br>（移動） | 美術教育における汎用的資質・能力の育成に関する一考察<br>東京学芸大学附属小金井小学校<br>守屋　建<br>Ａ３ | 〔モジュール発表〕<br>文化多様性の理解を目的とした色彩構成ワークショップの開発 | 視覚障害高校生の彫刻鑑賞における対話的支援の役割<br>明治学院大学非常勤<br>半田こづえ<br>Ｃ３ | 肢体不自由特別支援学校の美術科指導における目標設定の方法に関する実践研究(1)<br>-実践に対するSTの認識に着目して-<br>筑波大学大学院<br>森田　亮<br>Ｄ３ | 創造主義を支えるシステムの顕在化Ⅱ<br>-美術教育における大正新教育との邂逅と乖離-<br>東京造形大学<br>小林貴史<br>Ｅ３ |
| １１：３０<br>１１：５５ | 21世紀美術科教育教員養成の研究(1)<br>-松原郁二・倉田三郎・熊本高工の美術教育論-<br>元宇都宮大学<br>山口喜雄<br>Ａ４ | 東京福祉大学短期大学部　手塚千尋<br>千葉大学　佐藤真帆<br>東京学芸大学　笠原広一<br>広島大学　池田吏志<br>群馬大学　茂木一司<br>Ｂ４ | 教育から見た「ソーシャリー・エンゲイジド・アート」の実践と分析<br>東京家政大学　結城孝雄<br>東京家政大学　畑山未央<br>Ｃ４ | 小学校高学年における鑑賞活動カリキュラムの研究<br>府中市立若松小学校<br>大杉　健<br>Ｄ４ | 表現活動としての掃除を通した価値観の展開<br>-「モウソウジ」プロジェクトをもとに-<br>群馬大学大学院<br>高木蕗子<br>Ｅ４ |
| １２：００<br>１２：１０ | 研究発表者(全員)への諸連絡 | 昼　食　・　休　憩　（１１：５５～／６５分）<br>※当日、近隣には昼食を購入する店はありません。また、学食も利用できませんので昼食は持参してください。 | | | |
| １３：００<br>１３：２５<br>（移動） | 1950-70年代のアメリカにおける美術教育評価論に関する一考察<br>元筑波大学大学院博士課程<br>佐藤絵里子<br>Ａ５ | ワークショップにおける関係性に関する実践研究Ⅱ-「場・人・モノ」の関係性に着目したプログラム開発のための仮説モデルの構築-<br>横浜国立大学大学院研究生<br>前沢知子<br>Ｂ５ | 図画工作科における創造活動を通した「造形的な視点」の研究Ⅱ -「思い」と「イメージ」の関係について-<br>東京学芸大学<br>西村徳行<br>Ｃ５ | 保育士及び幼稚園・小学校教員養成系学部におけるデザイン思考を活用した学びの研究<br>東京成徳大学<br>直井　崇<br>Ｄ５ | 廃材を用いた環境教育<br>東京家政大学４年<br>高橋　遥<br>Ｅ５ |
| １３：３０<br>１３：５５<br>（移動） | 中学校美術科と国語科の教科融合型学習の研究<br>-地域の鉱物から顔料を作り、色名を考える事例から-<br>大分大学　藤井康子<br>大分県立美術館　木村典之<br>津久見市立第一中学校　松永芳恵<br>Ａ６ | 絵画の共同制作における場の作り方<br>館林市立第一小学校<br>藤原秀博<br>Ｂ６ | ソーシャル・プラクティスによる学びの共有と「私たち感」の育成<br>横浜国立大学大学院<br>細野泰久<br>Ｃ６ | 保育者養成における粘土制作体験の教育的意義に関する一考察<br>-授業観察とアンケート調査に基づいて-<br>湘北短期大学非常勤<br>三上　慧<br>Ｄ６ | 子どもの美的体験における比喩的イメージの活用と課題Ⅵ<br>-メタファー写像によるイメージの生成と操作-<br>東京家政学院大学<br>立川泰史<br>Ｅ６ |
| １４：００<br>１４：２５<br>（移動） | 秋田＆フィンランドの「視覚美術・工芸」教育交流展の実践報告(1)<br>大仙市立西仙北中学校　田中真二朗<br>秋田県立西目高等学校　黒木　健<br>秋田公立美術大学　尾澤　勇<br>Ａ７ | 地域の伝統文化を学ぶ教材のあり方を探る<br>-夢獅子を題材とした経験的な学修を中心に-<br>熊本大学<br>赤木恭子<br>Ｂ７ | 地域のアートモニュメント(パブリックアート)を活用した鑑賞題材の作成と実践-Webサイト『堺・アートクルーズ』を通して-<br>堺市立美原西中学校　田中圭一<br>Ｃ７ | 幼小中連携から見えてくること-横浜公立小中学校図工・美術実践現場からの報告-<br>横浜市立泉が丘中学校　金阿彌努<br>横浜市立二ツ橋小学校　松本有加<br>横浜市立西寺尾小学校　笠本健太<br>Ｄ７ | 日本美術教育連合「山形文庫」の持続的な活用と美術教育研究の発展を目指して<br>筑波大学　箕輪佳奈恵<br>筑波大学　直江俊雄<br>Ｅ７ |
| １４：３０ | 休　　憩　（１４：２５～／１５分） | | | | |
| １４；４０<br>１５：０５<br>（移動） | アイスランドとCity and Country Schoolの交流<br>東京学芸大学大学院博士課程<br>伊東一誉<br>Ａ８ | 現象学的視点からの造形活動分析による学習者の学びの理解を目指して<br>神戸市外国語大学大学院・神戸市立港島学園小学部　小田恵子<br>Ｂ８ | 朝鑑賞の取り組みと成果報告<br>武蔵野美術大学<br>三澤一実<br>Ｃ８ | 英語活動を取り入れた図画工作科の授業開発-美術作品の鑑賞を生かした表現の試み-<br>福岡教育大学非常勤　樋口和美<br>大分大学　藤井康子<br>Ｄ８ | 子供が自分らしさに気付く図画工作科の授業づくり<br>岡山大学教育学部附属小学校<br>高橋英理子<br>Ｅ８ |
| １５：１０<br>１５：３５<br>（移動） | 社会と関わる美術教育のあり方-教師教育における再概念化-<br>韓国春川教育大学<br>柳　芝英<br>Ａ９ | ESDの視点からみた造形教育の実践<br>-東日本大震災で被災した宮野森小学校の場合-<br>東松島市立宮野森小学校<br>宮﨑敏明<br>Ｂ９ | 地域に根差した美術教育運動<br>國學院大学栃木短期大学<br>名取初穂<br>一般社団法人真岡青年会議所<br>伊澤　学<br>Ｃ９ | 知的障害児のコミュニケーション能力を促す造形授業の一考察<br>筑波大学附属大塚特別支援学校・筑波大学大学院博士課程<br>森　芸恵<br>Ｄ９ | 発想や構想の能力と資質・能力論<br>東京学芸大学<br>山田一美<br>Ｅ９ |
| １５：４０<br>１６：０５<br>（移動） | 国際美術教育学会誌に見る研究動向<br>筑波大学<br>直江俊雄<br>Ａ10 | 教員養成課程の図画工作における対話型造形活動についての一考察<br>目白大学<br>佐藤仁美<br>Ｂ10 | 義務教育段階の造形活動を通した「アクティブ・ラーニング」の課題<br>-小学校「ものづくり部」における対話型・主体的学びに関する考察-<br>東京藝術大学大学院博士課程<br>Ｃ10　中村　儒纏 | 幼児教育における描画活動の環境設定と意義<br>東京家政大学４年<br>鈴木紗都子<br>Ｄ10 | ジェネリック・スキル獲得を目指したアクティブ・ラーニングによる版画教育実践<br>帝京大学短期大学　大貫真寿美<br>帝京大学短期大学　三好昭子<br>秋草学園短期大学　三好　力<br>Ｅ10 |
| １６：１０ | 閉会式（１０分間　発表会場　A　～１６：２０） | | | | |
| １６：３０<br>１８：２０ | 第51回日本美術教育研究発表会懇親会・集合写真撮影〔　東京家政大学１６号館１階カフェラウンジ「ルーチェ」〕<br>※当日、午前中に受付で申込、一般2500円、院生･学生2000円（ワイン・清酒・洋酒のもちよりを歓迎します）昨年度63名参加 | | | | |

# 第51号　日本美術教育研究論集　2018
## 【投稿および掲載要項】

**研究論集編集委員会**

### 投　稿　要　項

□投稿条件：　第51回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『第51号研究論集2018』に投稿できます。
投稿論文の研究論集への掲載は､次の（１）～（５）の条件を全て満たしたものに限ります。
(1) 投稿原稿が、研究発表会における発表内容と基本的に同じ内容であること。
(2) 投稿原稿が、研究論集の要項に適合していて、書式・分量等が守られていること。
(3) 掲載料を期日（2017年11月８日）までに納入していること。
(4) 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有権者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。
引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
(5) 研究論集編集委員会において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。

□論文査読：　Ａ群（理論・実践研究論文）・Ｂ群（実践研究報告等）・Ｃ群（研究ノート）ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。

□原稿書式：　Ａ群・Ｂ群・Ｃ群ともに、本文および図版（写真・表・図等）等、英文サマリー（Ａ群のみ）を含め、下記の文字数を守って下さい。
１頁分は、Ａ４横組２段　23字×44行×２段＝2024字です。
第１頁のみ第１行目から第６行目（２段取り）までに、題目（副題）・所属・氏名を記載し、本文との間に２行（２段取り）のスペースを空け、本文は､10行目から書き始めます。なお、題目の英語表記ならびに所属・氏名のローマ字表記もこれに含めます。
共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。
大項目１．２．３．[全角数字]…、中項目（１）（２）（３）…、小項目①②③…。

□掲載要項：　Ａ群・Ｂ群・Ｃ群ともに原則として８頁（Ｃ群のみ６頁も可）とし、掲載料は一般（給与を得ている内地留学生等を含む）15,000円、院生・学生8,000円です。
２頁増ごとに6,000円を加算し、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。
増頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
原稿は、①ワープロ等で印字し、②データを保存したCD-R等を合わせて提出すること。
CD-R等の未提出の場合は、一般・学生とも加工料込み30,000円です。
カラーページは１頁につき12,500円を加算します。
抜き刷り（一律50部）は、８頁モノクロで7,000円です。２頁増ごとに2,000円を加算します。
（抜き刷りのカラーページは、１頁ごとに2,000円を加算します。）
掲載料は投函以前に納入し、送金の証明書（利用明細書のコピー等）を同封して下さい。
口座記号番号：００１７０－１－　　８６０３６（右寄せで記入）　郵便振込です。
加入者名　　：公益社団法人日本美術教育連合
ご依頼人　　：（〒）おところ・おなまえ・電話番号・所属
通 信 欄　　：例　掲載料15,000円（一般、８頁）＋増頁分6,000円（２頁増の場合）＝21,000円（計10頁）
抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。
※査読の結果、掲載に至らない場合は10,000円（院生・学生は5,000円）のみ返金となります。抜き刷りの料金については、全額返金します。

### 〈投稿原稿〉11/８（水）必着

□投稿〆切：　2017（平成29）年11月８日（水）必着。Ａ群・Ｂ群・Ｃ群とも、
①正１部と副４部（コピー可）計５部、②原稿CD-R等、③投稿エントリーシート、④送金証明書（エントリーシートに貼付）を提出して下さい。
投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。
ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。
なお、発行日は2018（平成30）年３月31日を予定しています。

□ 送 付 先：　〒173-8602　東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学　家政学部　児童教育学科　　結城孝雄　宛

### 連絡・問合先

□詳細連絡：　研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を最終案内で確認して下さい。
□問 合 先：　研究論集編集委員長　小林貴史：042-637-8111（代）　ktakashi@zokei.ac.jp（東京造形大学）

事業局より

# 連合ライセンス講座　美術教育力養成講座　第３期２次
# 「海外美術教育　ワークショップ－明日の授業が変わる－」
# 連続講座を終了して

事業局長　水　島　尚　喜

平成29年８月21日（月）、22日（火）の両日にわたって、連合主催の連続講座「造形・美術教育力養成講座【海外美術教育ワークショップ－明日の授業が変わる－】」（会場：聖心女子大学）が、開催されました。InSEA世界大会（於：韓国大邱）の終了直後であり、近年の美術教育の国際化を踏まえた多彩なアクティプラーニングの内容に、受講者の方々は熱心に取り組んでいました。詳細につきましては、次号連合ニュースにてお知らせしたいと思います。

上：仲瀬先生「フレーベルの基本的な考え方に基づいて」　上：小林先生＆北澤先生「アルチンボルトを身近な素材で」

下：山口先生「スウェーデン・フィンランド・ロシアの著明美術館教育事情」についてのレクチャー

国際局より

# InSEA2017　韓国・大邱大会に参加して

## －国際的な美術教育の／による交流・連携をどうするか？－

InSEAアジア地区評議員・国際局　茂　木　一　司

第35回国際美術教育学会（InSEA）2017が韓国南部の第３の都市である大邱広域市EXCO（大邱国際会議場）で８月７日（月）から11日（金）まで開催された。参加者は42カ国1,102人にのぼり、日本人は88人で韓国（738人）についで２位、アメリカ（69人）を上回った。

開会式前の初日の午前中はWorld Councilor（2015-2017）会議である。出席者は､Teresa Eça（会長、ポルトガル、敬称略)、Rita Irwin（前会長、カナダ)、Glen Coutts（副会長、英国)、Vedat Ozsoy（秘書)、アジア地区のSunah Kim（韓国）や茂木の他各地区から合計15名の委員が出席した。会長や主催者の挨拶の後､各委員からのInSEA reportの紹介があり､日本におけるInSEA Japanの活動報告（2014-2017）をした。報告内容は主に日本美術教育連合（InSEA Japan）の研究会やシンポジウムなどの年次活動であるが、メルボル大会でTeresaから受けた日本のInSEAの窓口をわかりやすくしてほしいという依頼に対して、美術教育関連団体（美術科教育学会、大学美術教育学会）との意見交換や会員や入会希望者のための情報提供のためのホームページの整備（英語版を鋭意努力中）について、報告した。HPのリニューアルについては皆さんから拍手をいただいたが、同時にInSEAは基本的に個人加盟なので、会員名簿の管理や意見の集約など、団体としての活動ができ（てい）ないという欠点があると言う意見を述べた。同様な問題が他国（フィンランド？）にもあると言われた。

周知のようにInSEAはユネスコ（国連教育文化機関）の正式なパートナーであり、文字通（The International Society for Education Through Art）アートを通した創造的な教育、人々の相互理解・交流をする唯一の国際組織として存在するが、けっして盤石な組織ではない。会員の構成をみるとアジア（139人、５機関８カ国)、東南アジア（52人、２機関９カ国)、中東・アフリカ（64人、３機関16カ国)、ヨーロッパ（199人、17機関26カ国)、ラテンアメリカ（26人、１機関５カ国)、北アメリカ（168人、１機関３カ国）で、合計648人がすべてである*。各国の美術教育や研究・実践者の存在を考えるとInSEAへの加入がいかに少ないかがわかる。その原因には、名簿を管理したり、特に会費を請求したりする事務管理の難しさである（かくいう自分も、渡韓直前に年会費の請求が来て、慌てて支払いをしたことであった)。現体制は組織の整備を進めながら、組織の発展のために新たな事業をCouncilorの貢献で進めていこうとして､広報（HPやTwitter, Facebook, youtubeなどSNS, News- letter）の充実、ユネスコや世界芸術教育連盟（World Alliance for Arts Education）への協力（国際芸術教育週間など）及び各国の国際美術教育会議への後援（InSEA地区大会など)、表彰事業、研究事業（機関誌IJADE）の編集発行、電子出版（Ebooks、美術教育の国際調査など)、など、幅広く展開しようとしている。これらの事業を充実させ、国際的美術教育のさらなる発展を考えるなら、まず会員の確保が急務と思う。そして、その会員がアートを通した教育を充実させるための各国の組織的な支援態勢の構築である。今回の大会で感じたのは、アジアの美術教育の交流を進めることの必要性である。アートの世界は欧米中心からの脱出を図っているが、美術教育はまだ文化の独自性を模索する明確な方向性を見出していない。今後の課題であろう。

話を大邱大会に戻そう。大会テーマは､「精神・アート・デジタル」である。韓国の意気込みを感じる題目である。直面するデジタル社会に美術教育はどう関与・貢献できるのか？方法論や技術の問題ではなく、精神性や人間性を支える問題として、

芸術教育との共存を考える機会としてしている。開会式は、メディアアートパフォーマンスから始まった。音楽とのコラボレーション、VRを使った空間ドローイングにプロジェクションマッピング…、美術教育の今後を予兆させるものだった。

発表者は39カ国406人で、内訳は韓国117人、その他290人であった。発表やワークショップでも日本人の貢献が目立った。招待講演では初日の福本謹一氏から始まって、長町充家氏、青木智子氏、大坪圭輔氏、宮坂元裕氏、大橋功氏、神林常道氏など。今回日本人のために特別に日本語発表ブースを設けていただいたことには感謝したい。実践者が国際学会で発表する機会にもなった。これは、福本氏の調整や昨年の韓国のSEAK（Society for Art Education of Korea）シンポジウムの際の大会運営に関する意見交換の成果であった（日本人発表者の詳細については数が多いので省略）。

私も“Art as the basis of education: From collaborative art education to inclusive art education”と題する口頭発表と継続している異文化理解アートワークショップを出品した。前者は今までの障害児を対象とした身体・メディアワークショップからアートマネジメント人材育成の事業まで、アートの学習が“新しいインクルージョンをテーマにした社会デザイン／教育モデル”の基礎になるべきと提案した。後者のワークショップ（茂木、手塚千尋、池田吏志、笠原宏一、郡司明子、春原史寛）は、“Diversity ×Color Workshop”をテーマに、色彩の持つ社会文化的な背景を個人がどう日常の中でどのように表現／コミュニケーションしているかをカルタでつくってもらった。60分の時間はやや短すぎたが、日本色彩研究所のPCCSの色紙の美しさを含めて、参加者には大変好評であった。

**“世界はアートでひとつになれる”**（６年前のブダペスト大会の参加録にも書いたが）InSEAのよさは元気をもらえることだ！私たちは矮小化される図工美術教育に慣れっこになってしまっているが、世界はそうではない。政治、経済、文化のどの分野にも創造的に関わっていけるアートの力が多種多様に実験されている。InSEAは“アートの力を信じ、アートによって世界を拓いていこうとする意志や希望の集まる場”である。グローバル化が進み、同時に多様性が生きる時代になっている。多様なヒトモノコトをありのままに受容できるアートが今風を受けている。“現代はアートの時代。アートによってしか問題解決できない時代”（R.シュタイナー）という言葉を積極的に理解／活用したい。まだInSEAに参加していない人はとりあえず参加しよう！　次（カナダ大会2019）はみんなでね!!

InSEA World Councilor（2015-2017）会議後の記念写真（2017.8.7）

※アジア：韓国 52、日本 48、台湾 22、中国９、バングラデシュ・モンゴル・スリランカ１、東南アジア：オーストリア 35、フィリッピン・ニュージーランド４、インドネシア３、シンガポール２、インド・マレーシア・パプアニューギニア・タイ１名、中東／アフリカ：エジプト 33、トルコ 14、カタール３、オマーン・南アフリカ２、ドバイ・ガーナ・ケニア・レバノン・ナンビア・パレスチナ・サウジアラビア・ウガンダ・UAE １名、ヨーロッパ：フィンランド 41、スウェーデン 25、スペイン 21、英国・ドイツ 18、オーストリア・ポルトガル８、キプロス６、マルタ・ノルウェイ・スロベニア４、クロアチア・チェコスロバキア・フランス・ハンガリー・アイルランド３、ギリシャ・デンマーク・アイスランド・ポーランド２名、ベルギー・ブルガリア・イタリア・ラトビア・ロシア１名、ラテンアメリカ：ブラジル 16、チリ５、ウルグアイ３、コロンビア・ペル１、北アメリカ：米国 137、カナダ 28、メキシコ３。

役員選挙予告

## 第５期、平成30・31年度役員改選について

理事長　大　坪　圭　輔

第４期、平成28･29年度役員任期満了に伴う、第５期、平成30･31年度役員選挙につきましては、「公益社団法人日本美術教育連合定款25条」により、平成29年12月に郵送によって実施します。つきましては、平成29年８月27日に開催しました第２回理事会及び運営員会において、選挙管理委員会委員長に藤崎典子氏を選出いたしました。今後は、藤崎典子選挙管理委員会委員長の管理の下、平成29年12月初めに会員宛てに投票用紙の郵送、同年12月末までに会員より郵送にて投票、平成30年１月初旬に開票となります。結果は同年３月の連合ニュース及びホームページで公開し、平成30年度定時総会での新役員承認となります。詳細な日程は未定ですが、会員の皆様にはご予定頂きますようお願いいたします。

# 事務局だより

## 第51回　日本美術教育研究発表会2017開催迫る！

10月15日（日）に行われる、第51回　日本美術教育研究発表会2017（文部科学省後援予定）が東京都板橋区加賀の東京家政大学板橋キャンパスにて開催されます。研究発表への多数のお申込ありがとうございました。詳しくは前掲のご案内をご参照ください。本年度は49組とこれまでの最多の研究発表が予定されています。広く日常的な実践の中での児童生徒の姿をもとに紡がれた報告から、理論的・歴史的背景など科学的な精査から組み立てられた研究、世界の美術教育の状況まで、多彩な発表が展開されることが期待されます。発表会会費として、概要集代500円を戴いております。運営上の経費としてご理解下さい。また、同会場での懇親会も奮ってご参加ください。リーズナブルで楽しく、初めて参加される方も関係者の皆さんと親しくなれる絶好の機会です。

## 平成29年度（2017年度）会費納入のお願い

### 本年度会費納入のお願い

**平成29年度会費　6,000円**　を　納入してください。

（公社）日本美術教育連合　郵便振替００１７０－１－８６０３６

※期限が過ぎておりますので、なるべくお早めに納入お願い申し上げます。
※会員の皆様からの納入状況は、あまりよくありません。今一度、会員の意識にたち、ご協力いただけますようお願い申し上げます。
※インターネットバンキングでもお支払いいただけます。その際、お名前や会費年度等、ご記入いただきますよう、宜しくお願いいたします。

## １．新会員のご紹介（敬称略）

本年度も多くに方が加入されました、これからの美術教育を支えていただく大切な方々です、多くの行事、研究会にご参集いただけますようお願い申し上げます。

宮崎敏明、高橋 英理子　有馬寛子、半田こづえ、森田 亮、木村典之、堀 新菜、高木蕗子、伊東一誉、永松芳恵、久保寺賀子、鈴木沙都子、高橋 遥、堀井武彦　各位

三好昭子、三好 力、中田俊吾、松波由香、佐藤真樹、田中崇士、の皆様は、書類の整理の関係で、11月の理事会で承認させていただきます。発表、参加には支障ございませんのでお知らせいたします。

---

■お問い合わせ先：事務局　東京家政大学　家政学部　児童教育学科　第７研究室
公益社団法人　日本美術教育連合　事務局長　結城　孝雄　迄

〒173-8602　東京都板橋区加賀1-18-1　東京家政大学
TEL+FAX　03-3961-5594（研究直通）
E-mail　takaoyuki@icloud.com
【郵便振替】（公社）日本美術教育連合　口座番号　００１７０－１－８６０３６